

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 年齢や発達状況が異なる子どもと一緒に過ごす場なので、それぞれに応じて適切に関わり、一人一人と集団全体の生活を豊かにすることが求められます。出欠確認や子どもの様子の変化などに気付くためにも、日々の子どもの関わりが大切になります。支援員の言動が子どもや保護者に影響を与えることを自覚して守秘義務を守ることや、職員同士が建設的な意見交換をできるようにしていることも大切なので、意識していきたいです。
- ◆ 支援員の仕事をしっかりと念頭において、職務に従事しなければならないと思いました。また、支援員に求められている資質や技能に関しては、常に自己研鑽に励み、資質向上のため、研修機会を確保していくことが大切だと理解できました。職員集団のあり方としては、自ら情報共有をし、分担と協力のもと支援を行い、いつでも建設的な意見交換ができる集団でありたいものだと思います。子どもに関わる大人が自分自身を大切に、頑張りすぎず笑顔で過ごすことも大切だという締めくくりの言葉が心に残りました。
- ◆ 放課後児童クラブは安心して過ごせる場所であり、支援員は信頼できる存在であることが求められます。そのためにも、支援員は仕事を進める上での倫理を自覚しなければなりません。子どもたちが安全に生活し、楽しく遊ぶといった日常のすべての場面で気を配り、寄り添える存在になれるよう日々努力していきたいです。私たちの遊びへの関わり方が子どもの心理に大きな影響を与えているということも自覚していきたいです。
- ◆ 放課後児童支援員の仕事は多岐にわたりますが、体験談を交えた講話は非常に分かりやすく勉強になりました。支援員は子どもの出欠席確認や体調・感情の把握などの日常的な仕事から非常事態発生時まで、様々な場面で対応力が求められます。支援員同士が協力し合うとともに、一つ一つの仕事を誠実かつ確実に行うことが子どもの安全安心に繋がると感じました。また支援員の言動は子どもや保護者に影響を与えるので丁寧に対応していきたいと思いました。
- ◆ 遊びや生活の中で生じる意見の対立などについては、お互いの考え方の違いに気付くこと、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげること等ができるように適切に援助する必要があります。放課後児童支援員などは仕事を進める上での倫理を自覚して、育成支援の向上に努めていかなければなりません。建設的な意見交換ができる集団づくりに努めていきたいと思いました。